【心筋梗塞が疑われるときの検査まとめ】

グラフィカル ユーザー インターフェイス, テキスト, アプリケーション, メール

AI によって生成されたコンテンツは間違っている可能性があります。

グラフィカル ユーザー インターフェイス

AI によって生成されたコンテンツは間違っている可能性があります。

【消化器官の検査まとめ】

グラフィカル ユーザー インターフェイス

AI によって生成されたコンテンツは間違っている可能性があります。

【MRIでわかること】

1. 脳の状態

脳の疾患：脳腫瘍、脳梗塞、脳出血、動脈瘤、脱髄疾患（多発性硬化症など）を発見

脳血管：MRA（磁気共鳴血管撮影）を使うことで、血管の閉塞や動脈硬化などを観察できる

2. 脊椎や神経の状態

椎間板ヘルニア：椎間板の変形や圧迫を確認できる

脊髄疾患：脊髄の損傷、炎症、圧迫、腫瘍など

神経の圧迫：神経が圧迫されている場所を特定できる

3. 関節や骨の状態

膝や肩などの関節：靭帯、半月板、軟部組織、関節の損傷や炎症を診断

骨の状態：骨折、骨の感染症、骨腫瘍などの問題を確認できる

4. 心臓の状態

心筋の異常：心筋梗塞後のダメージや心筋症、心膜の炎症などを評価できる

心臓の動き：心臓の収縮機能や拡張機能の評価にも使わる

血管：冠動脈や大動脈の異常を検出することができる

5. 肝臓、膵臓、腎臓の状態

肝臓疾患：肝臓の脂肪肝、肝硬変、肝腫瘍（良性・悪性）を確認できる

膵臓の異常：膵臓癌や膵炎など、膵臓の病気を評価

腎臓疾患：腎臓の腫瘍、腎臓内の異常を画像で確認できる

6. 腫瘍や癌

全身の腫瘍：肺がん、肝がん、乳がんなど、あらゆる部位の腫瘍やがんの評価に使われる

転移の確認：がんが他の臓器に転移しているかを調べるためにも用いられる

7. 血管の異常

血管の詰まり：動脈硬化、血栓、動脈瘤など、血管の状態を調べることができる

血流の評価：血流量や血管の形態に異常がないかを確認できる

【心電図とMRIの順序】

①家族に心疾患がある場合、最初に心電図で電気的異常やリズムの問題を簡単にチェックするのが一般的

②心電図で異常が見つかれば、次にMRIを受けて心筋や血管の構造的な問題や機能障害を詳細に調べるのが効果的

③家族歴による遺伝的なリスクを考慮しつつ、医師と相談して、最適な検査を受けることが大切